きっと、まだ、あるはず

猫の一生

にゃんライフのために私ができること。

平均寿命が15歳―。
若々しく見えても、
猫は7歳には高齢期を迎えます。
つまり、猫の一生＝にゃんライフのうち
半分以上は高齢期なのです。
愛する猫には、ずっと元気でいてほしい――。
そのために、病気になって慌てて
病院に行くほかにも
飼い主が普段からできることがあります。
あなたも今日から始めませんか？

私ができること

1 にゃんライフステージに合った「備え」をしよう

大切な家族の一員である猫。しかし、どんなにすばらしい飼い方をしても、人の数倍の速さで年齢を重ね、いずれ先に旅立ってしまいます。

飼い主としては考えたくないですが、このことを念頭におくことで、おのずと、愛猫が今どのライフステージにいるかをイメージできるはず。そして、愛猫の年齢やライフステージにふさわしいケアを心がけてみましょう。それにより、病気にかかりにくくしたり、寿命を延ばせる可能性があります。

私ができること

▶ 子猫期（0〜1歳）

うちの子の「いつも」を知ろう

飼育本に書いてある特徴が愛猫には当てはまらないことも。よく観察し、気質やクセ、食事の仕方、寝る時間やポーズなど、「いつも」の状態を知っておきましょう。そうすることで、いつも通りでないときの異変に早く気づけます。

「猫が苦手なもの」になれさせよう

多くの猫が苦手なことは子猫のうちになれさせておくのがおすすめ。キャリーケースにならすと、病気のとき、通院の負担が減ります。また、ブラッシングやスキンシップにならしておけば、毛並みや体格、できものなどの異変に気づきやすいです。

▶ 成猫期（1〜6歳）

「中年」であることを意識しよう

心身ともに安定しているこの時期は、飼い主も油断しがちです。しかし、成猫期の後半は人の中年。つねに「もしかしたら」という心構えで、愛猫をよく観察しましょう。

相談できる獣医師を見つけよう

病気にかかりやすい高齢期に向けて、ちょっとしたことでも相談できる獣医師を見つけて。通院のたびに、体重や検査結果などのデータが蓄積され、病気の早期発見に役立ちます。

▶ 高齢期（7歳〜）

異変を見逃さず、早期発見に努めよう

活発さがなくなることから、病気のサインを「年齢によるもの」と見落としてしまいがちな時期。何かしらの持病があることが多いので、より注意深く観察しつつ、定期的な通院で病気の早期発見・治療を。

私ができること

2 体重管理をしよう

人の体重は一日で数百グラムの増減が珍しくありませんが、体の小さな猫が数百グラム増減したら大問題。体重管理は自宅でできる「最強の健康管理」です。

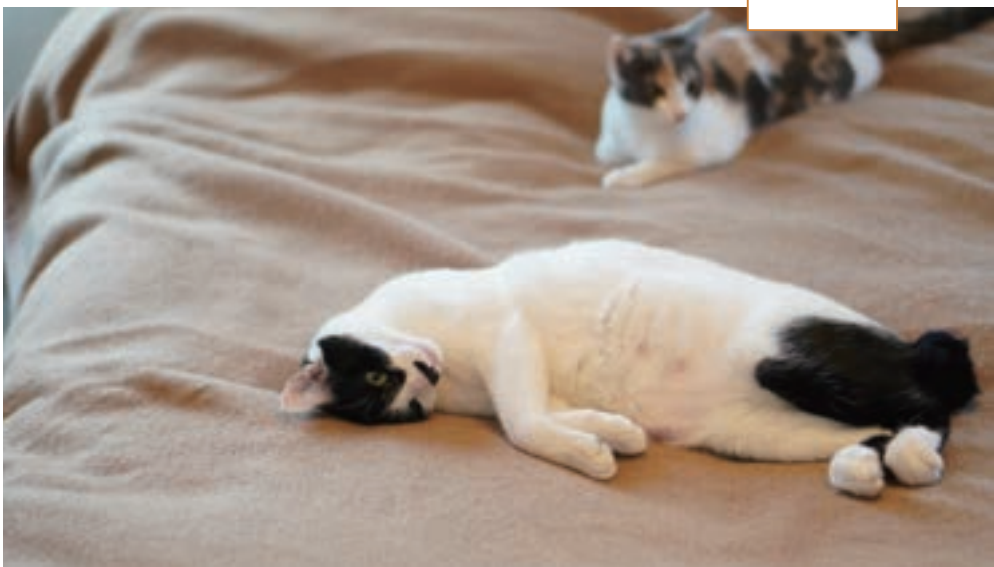
若いうちは肥満に気をつけて

何事にも意欲的な子猫期・成猫期は、食欲も旺盛な傾向に。また、留守番が多いと退屈しのぎに食べたりと、何かと太りやすい時期です。肥満は病気のリスクを高めるだけでなく、病気が治りにくくなる原因にもなります。また、一口に「肥満」といっても内臓脂肪が多いタイプは特に注意が必要。愛猫が肥満傾向にあるなら、まずは体重をこれ以上「増やさない」ようにしましょう。

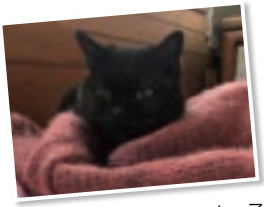
肥満が問題になりうる病気

関節疾患
肥満で関節に負担がかかる

糖尿病
膵臓から分泌されるインスリンがうまく機能せず高血糖に



高齢期は体重維持に努めよう



活動が低下するとともに食べる量も減る高齢期は、体重が減りやすい傾向に。また、病気にかかりやすいこの時期は、病気の回復のためにエネルギーを消費し、さらにやせてしまうことも。病気にかかったときのためにも、老化による体重減少は最小限にとどめたいものです。

また、体重減少が「老化」「病気」どちらによるものなのか見極めにくいので、慎重に猫の様子を観察し、獣医師に相談しましょう。

私ができること

適したフードをあげよう

年齢、飼育環境、持病など、猫にマッチしたフードを選んで。

月に1度体重を量ろう

猫を抱っこして体重計に乗る、キャリーケースに入れて量るなど。

おやつのカロリーを意識しよう

（フード＋おやつ）の総カロリーが1日の適切な摂取カロリーになるようバランスをとって。

フードの量を把握しよう

猫の食欲にまかせて、あげる量が増えたり減ったりしていないかチェックして。

適度に運動させよう

若い猫には食事以外の気分転換に、高齢猫は「狩りごっこ」で食欲スイッチON。

私ができること

3 慢性腎臓病について知ろう

猫がかかりやすい病気のひとつ「慢性腎臓病」についての正しい知識・付き合い方を知ることは、長生きの手がかりになりえます。

かかりやすさに年齢は関係ありません

もともと半砂漠地帯出身で肉食の猫は、少ない水で老廃物を排出するため、他の動物よりも腎臓に負担がかかりやすい動物です。また、先天的な腎疾患や、尿路結石などが原因となって慢性腎臓病に進行することも。

高齢の猫に多いことは確かですが、高齢の猫だけがかかるわけではないので、若いうちから注意が必要です。

慢性腎臓病ってこんな病気

何らかの原因で腎臓の機能が徐々に失われて行く病気。高齢猫の8割で認められていますが、若い猫でもかかる可能性があります。また、根本治療はありませんが、4つのステージごとに治療やケアを行います。

早期発見でうまく付き合える可能性があります

慢性腎臓病は、完全に治すことはできないものの、かかった猫が平均寿命をはるかに超えて20歳まで生きた例も少なくありません。この病気は、進行度合（ステージ）によってできることとその効果に大きな差があります。飼い主がサインに早く気づき、ステージに合った治療やケアで進行を抑えることが大切です。

私ができること

定期的に検査をしよう

年齢や病気の状態に則した頻度で定期的に検査を受け、ステージ・状態を把握し、最適な治療・ケアをして。

食事量・飲水量（尿量）をチェックしよう

その他、食べ方や食事にかかる時間の変化もチェックして。

水分を積極的に摂らせよう

腎臓への負担を軽くするため＆引き金になりうる他のオシッコの病気の予防のために。

体重維持に努めよう

かかっても痩せていない猫のほうが長生きしているというデータが！

（「Evaluation of Weight Loss Over Time in Cats with Chronic Kidney Disease」Journal of Veterinary Internal Medicine Volume30より）

私ができること

1日1粒のEneALA（エネアラ）

Supplement for pets　for Dogs & Cats

エネアラは、世界で初めて生命の根源物質・5-ALA（5－アミノレブリン酸）を配合した犬猫用サプリメント。体内で不足しがちな5-ALAを補うことで、健康維持をサポートします。

詳しくは当院へ
おたずねください。

猫が喜ぶ
カツオ風味！

開封が一目でわかるセキュリティーボトル

5ALA FUKUROI

製造者
KIYAN PHARMA 株式会社
東京都千代田区麹町6−2−6

販売者
物産アニマルヘルス株式会社
大阪市中央区本町２－５－７

3446AH CRE